

所属・役職	氏名
青柳中学校, 弥生小学校, 青柳小学校, あさひ小学校 地域コーディネーター 函館市教育委員会 学校教育指導監	工藤 勉
港中学校, 港小学校 地域コーディネーター 港小学校 元PTA会長, 民生児童委員 (学校運営協議会委員)	梅田 史恵
深堀中学校, 駒場小学校, 深堀小学校 地域コーディネーター 地域包括支援センターゆのかわ 保健係長 (学校運営協議会委員)	京谷 佳子
五稜郭中学校, 万年橋小学校 地域コーディネーター 北浜町会総務部長, 民生児童委員 (学校運営協議会委員)	酒井 道子
本通中学校, 南本通小学校 地域コーディネーター 南本通小学校 元PTA会長 (学校運営協議会委員)	神田 克実
北中学校, 北日吉小学校 地域コーディネーター 北中学校 PTA会長 (学校運営協議会委員)	齊藤 文大
恵山中学校, えさん小学校 地域コーディネーター 恵山中学校・えさん小学校 元PTA会長 (学校運営協議会委員)	廣島 千年
戸井学園, 戸井幼稚園 地域コーディネーター 地域包括支援センター社協 管理者 (学校運営協議会委員)	高田 伸一
巴中学校 地域コーディネーター 元的場中学校 PTA副会長 (学校運営協議会委員)	吉村 小織
桔梗中学校 地域コーディネーター 桔梗中学校 元PTA会長 (学校運営協議会委員)	千山 毅
中部小学校 地域コーディネーター 学校給食会事務局長, 民生児童委員 (学校運営協議会委員)	中村 ひでの
北星小学校 地域コーディネーター 北星小学校 PTA顧問	梶原 亜里沙
千代田小学校 地域コーディネーター 千代田小学校 元PTA会長 (学校運営協議会委員)	阿久津 満希
大森浜小学校 地域コーディネーター 函館市PTA連合会 事務局長 (学校運営協議会委員)	中村 和代
中の沢小学校 地域コーディネーター 中の沢小学校 PTA会長 (学校運営協議会委員)	吉田 彩子
昭和小学校 地域コーディネーター 昭和小学校 元PTA会長, 民生児童委員 (学校運営協議会委員)	照井 千津
市立函館高校 地域コーディネーター 市立函館高校 元PTA会長 (学校運営協議会委員)	田中 慎一

函館市地域学校協働活動連絡会議設置要綱

(設置)

第1条 本市の地域学校協働活動の推進に関し必要な検討を行うため、函館市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に、函館市地域学校協働活動連絡会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 会議は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 各市立学校における地域学校協働活動の取組事例と本市の地域学校協働活動の今後の方向性に関する事。
- (2) 地域学校協働活動推進員の配置および地域学校協働本部の設置に関する事。
- (3) その他地域学校協働活動に関する事。

(組織)

第3条 会議は、函館市地域学校協働活動推進事業地域コーディネーター設置要綱に基づく地域コーディネーターで、教育委員会が委嘱する委員をもって組織する。

- 2 会議にオブザーバーを置き、必要に応じて意見、助言等を求めることができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日からその日の属する年度の末日までとする。

- 2 委員の再任は、妨げないものとする。

(座長)

第5条 会議に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選により定める。
- 3 座長は、会務を総理し、会議を代表する。
- 4 座長に事故等があるときは、あらかじめ座長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第6条 会議は、座長が招集する。

- 2 座長は、会議の議長となる。
- 3 座長は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。
- 4 第1項の規定にかかわらず、教育委員会は、必要に応じ、委員を招集し会議を開くことができる。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、教育委員会学校教育部教育政策推進室学校再編・地域連携課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和2年7月28日から施行する。

附 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

函館市地域学校協働活動推進事業地域コーディネーター設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、函館市教育委員会（以下「委員会」という。）が委嘱する地域コーディネーターに関し、必要な事項を定めるものとする。

(委嘱)

第2条 地域コーディネーターは、函館市立の幼稚園、小学校、中学校および高等学校（以下「学校」という。）や地域の現状を理解し、学校の教育活動向上に意欲がある者のうちから、委員会が委嘱する。

(活動内容)

第3条 地域コーディネーターの活動内容は、次のとおりとする。

- (1) 学校の関係者、地域ボランティアとの連絡および調整に関すること。
- (2) 地域ボランティアに係る情報収集、育成等に関すること。
- (3) 学校への地域ボランティアに係る情報の提供に関すること。
- (4) 活動内容の発信および周知に関すること。
- (5) 前各号に掲げる活動内容のほか、委員会が必要と認めること。

(承認)

第4条 地域コーディネーターは、第2条の規定により委嘱される場合、承諾書（第1号様式）を委員会に提出しなければならない。

(活動状況の管理および活動記録の作成)

第5条 地域コーディネーターは、活動状況を報告するため、地域コーディネーター実績報告書（第2号様式）を委員会に提出しなければならない。

(身分証)

第6条 委員会は、第2条の規定により委嘱した地域コーディネーターに対し、身分証（第3号様式）を交付する。

2 地域コーディネーターは、活動に従事するときは、常に身分証を所持しなければならない。

(報酬)

第7条 地域コーディネーターの活動は、無報酬とする。

(任期)

第8条 地域コーディネーターの任期は、委嘱の日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(委嘱の辞退)

第9条 地域コーディネーターは、前条の任期の満了前に委嘱を辞退しようとするときは、14日前までに委員会に申し出なければならない。

(委嘱の解除)

第10条 委員会は、地域コーディネーターが次の各号のいずれかに該当する場合は、任期の満了前であっても委嘱を解くことができる。

- (1) 地域コーディネーターの活動を怠った場合
- (2) 心身の故障のため、活動の継続に支障があり、またはこれに堪えられない場合
- (3) 地域コーディネーター活動の実績が良くない場合
- (4) 地域コーディネーターとしてふさわしくない行為があった場合

(守秘義務)

第11条 地域コーディネーターは教育委員会または学校の許可があった場合を除き、その活動上知りえた秘密を漏らしてはならない。また、地域コーディネーターの委嘱期間終了後も同様とする。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行について必要な事項は、函館市教育委員会学校教育部教育政策推進室学校再編・地域連携課長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年7月7日から施行する。

【様式第1号】

函館市地域学校協働活動推進事業
地域コーディネーター承諾書

私は、下記事項を了承し、函館市地域学校協働活動推進事業地域コーディネーターとなることを承諾します。

記

- 1 期 間 年 月 日～ 年 月 日
- 2 配 置 校 函館市立 学校
- 3 報 酬 無報酬とする。

年 月 日

函館市教育委員会 様

住 所

氏 名

印

【様式第2号】

年度 函館市地域学校協働活動推進事業

地域コーディネーター実績報告書（ 月分）

学校名		地域コーディネーター 氏名	
-----	--	------------------	--

活動日	曜日	活 動 内 容	活動時間 (24 時間表記)		本人印	校長印
			～			
			時間数	時間		
			～			
			時間数	時間		
			～			
			時間数	時間		
			～			
			時間数	時間		
			～			
			時間数	時間		
			～			
			時間数	時間		
			～			
			時間数	時間		
活動時間（合計）			時間			

※ 翌月15日までに、函館市教育委員会へ提出するものとする。

第 号

身分証明書

所属学校名：

氏 名：

生 年 月 日：

上記の者は、本市の地域学校協働活動推進事業地域コーディネーターであることを証明する。

任 期 年 月 日

年 月 日

年 月 日

函館市教育委員会 印

地域コーディネーターの役割と重要性について

(内容)

- ・ 函館市のコミュニティ・スクールの現状
- ・ 地域コーディネーターの役割と重要性について

・ 令和5年5月31日（水）

・ 函館市教育委員会 学校再編・地域連携課

1 函館市の学校運営協議会の設置状況 (令和5年度)

- 小学校 38校
- 中学校 18校
- 義務教育学校 1校
- 高等学校 1校
- 幼稚園 1園

39 協議会
100%

コーディネーター配置校（教育委員会が委嘱）

■ 青柳中学校区（青柳ネット）（工藤 勉 氏）

- ・ 青柳中学校 ・ 弥生小学校
- ・ 青柳小学校 ・ あさひ小学校

■ 港中学校・港小学校（梅田 史恵 氏）

■ 深堀中学校・駒場小学校・深堀小学校

（京谷 佳子 氏）

■ 五稜郭中学校・万年橋小学校（酒井 道子 氏）

■ 本通中学校・南本通小学校（神田 克実 氏）

■ 北中学校・北日吉小学校（齊藤 文大 氏）

■ 恵山中学校・えさん小学校（廣島 千年 氏）

■ 戸井学園・戸井幼稚園（高田 伸一 氏）

■ 巴中学校（吉村 小織 氏）

■ 桔梗中学校（干山 毅 氏）

■ 中部小学校（中村 ひでの 氏）

■ 北星小学校（梶原 亜里沙 氏）

■ 千代田小学校（阿久津 満希 氏）

■ 大森浜小学校（中村 和代 氏）

■ 中の沢小学校（吉田 彩子 氏）

■ 昭和小学校（照井 千津 氏）

■ 市立函館高校（田中 慎一 氏）

2 地域コーディネーターの役割

- ・ 学校の関係者と地域をつなぐ役割
- ・ ボランティアの情報収集, 連絡, 調整

【学校】

- ・ こんな取組がしたい
- ・ こんな人材がほしい
- ・ 一緒に活動してもらいたい

【地域】

- ・ こんなことを知っている
- ・ こんなことができる
- ・ 何か役に立ちたい

コーディネーターの役割

- ・ 学校の関係者と地域をつなぐ役割
- ・ ボランティアの情報収集, 連絡, 調整

知らせる

つなぐ

育てる

支える

市内各学校の成果①

【人材育成】

- ・ **コーディネーター配置により**，学校の業務を増やさずに地域との連携が深まった。
- ・ 教職員が，教育活動に地域住民や保護者からの支援を受け，児童の安全確保，授業の内容・効率の改善について実感している。
- ・ 教職員がカリキュラム・マネジメントを意識し授業等に地域の人材を生かそうとする機運が高くなってきた。
- ・ 教職員が**地域コーディネーター**やCS担当教員に相談し打合せする動きが見られるようになってきた。
- ・ 教職員が学校外の人材を生かす力，外部と折衝する力が身に付いてきている。

市内各学校の成果②

【学校・地域との連携】

- ・学校の教育活動に対し様々な角度や多様な見方からの意見をもらうことで、教育活動や地域連携に関する点検や見直しを図ることができた。
- ・地域に点在する優れた教育資源をコミュニティ・スクールを核につなげ、地域と学校の連携を深める組織作りが進められた。
- ・各学校の抱える共通の課題について、小・中連携した取組を地域を交えて協議することができた。

市内各学校の成果③


【活動内容】

- ・地域の施設や商店等と連携し、従来学校で行ってきた事業を委託したり、協働した取組を行ったりすることができた。
- ・熟議を重ねることで、お互いが「子どもたちのよりよい未来のために尽力したい」という熱意をもっていることを再確認できた。
- ・子どもの授業の様子を見てもらうことで、今後のCS事業のイメージをもってもらうことができた。
- ・**コーディネーターのおかげ**で今年度から小中校区で1つにまとまって活動を始めることができた。
- ・本校における学校経営方針等について、委員の皆様から十分理解を得られたり、その他に意見をいただいたりするなど、学校経営に反映させることができた。

地域学校協働活動実践事例集について

令和3年度
(2021年度)

函館市のコミュニティ・スクールの取組
～地域学校協働活動実践事例集～



函館市教育委員会 学校教育部
教育政策推進室
学校再編・地域連携課
令和4年(2022年)6月作成

「地域とともある学校づくり」を目指して

令和3年(2021年)10月14日 NO.3
函館市教育委員会学校教育部
教育政策推進室学校再編・地域連携課

【令和3年度】「町会」・「地域包括支援センター」と連携した取組

本市では、今年度についても、コロナ禍で多くの制約がある中、各学校において、感染対策を講じ、様々な工夫を凝らしながら、「コミュニティ・スクール(CS)」の取組として地域学校協働活動が展開されています。

その中でも、本市が推進を推進している「数校の連携・防犯訓練」と様々な場面で学校の活動に協力いただいている「町会」・「地域包括支援センター」(令和4年度から「協賛拠点」として機能拡充予定)と連携した取組事例について、ご紹介します。

注「町会」との連携 青柳中学校・弥生小学校 青柳小学校・あまひ小学校

注「地域包括支援センター」の連携 青柳中学校

注「町会」の連携 4校合同(CS)主催 「青柳ネット防犯(1-9)の活動」

注「地域包括支援センター」の連携 地域の「お散歩マップ」作成への参加

活動の経緯

活動の成果など

「地域とともある学校づくり」を目指して

令和4年(2022年)5月16日 NO.4
函館市教育委員会学校教育部
教育政策推進室学校再編・地域連携課

【令和3年度】「町会」・「地域包括支援センター」と連携したコミュニティ・スクール(CS)の取組(令和3年度)をご紹介します。

【町会】との連携 1 青柳小学校

【町会】との連携 2 万年橋小学校

【町会】との連携 3 中の小学校

【町会】との連携 4 大森小学校

活動の経緯

活動の成果など

「地域とともある学校づくり」を目指して

令和5年(2023年)5月12日 NO.5
函館市教育委員会学校教育部
教育政策推進室学校再編・地域連携課

今回は、「町会」と連携したコミュニティ・スクールの取組(令和4年度)、4事例をご紹介します。

【町会】との連携 1 深川中学校・深川小学校

【町会】との連携 2 青柳中学校・深川小学校

【町会】との連携 3 中の小学校

【町会】との連携 4 大森小学校

活動の経緯

活動の成果など

▶▶▶函館市 地域コーディネーターの配置

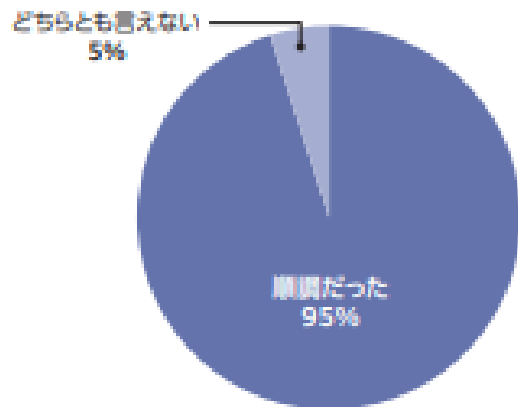
<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2021021600053/>

全国コミュニティ・スクール連絡協議会 × 文部科学省

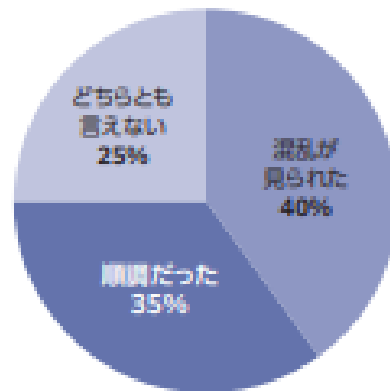
「学校と地域の課題解決につながるコミュニティ・スクールの推進 ～学校と地域がつながるために～」

宮城県内の小中学校校長へのアンケート調査

Q:避難所において自治組織が立ち上がる過程は順調だったか?



学校支援地域本部^(※)あり (20校)



学校支援地域本部^(※)なし (20校)

(※)地域学校協働本部の前身
(東日本大震災後の宮城県内の小中学校長(40名)へのアンケート調査:文部科学省調べ)

【調査結果】

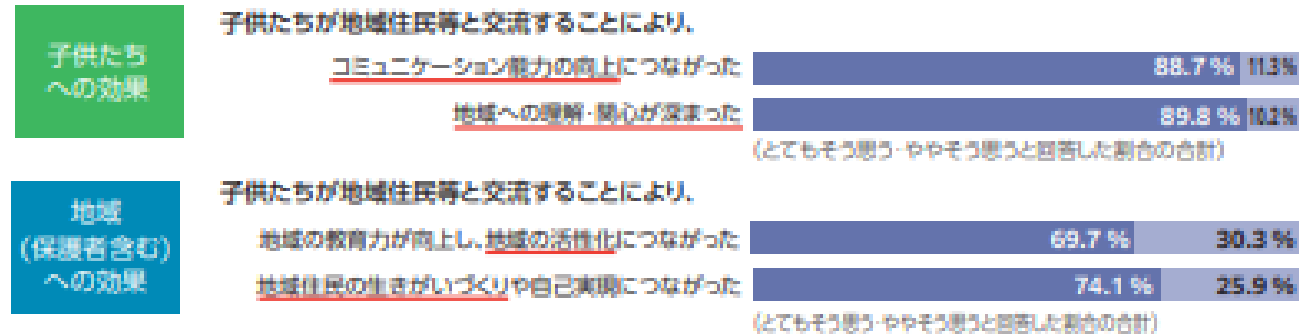
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動は、**地域と学校が平時から日常的につながり合う仕組み**であり、災害時の避難所運営など「**地域防災**」においても**効果を発揮**

全国コミュニティ・スクール連絡協議会 × 文部科学省

「学校と地域の課題解決につながるコミュニティ・スクールの推進 ～学校と地域がつながるために～」

地域学校協働本部を設置している学校を対象とした調査

Q:実際に本部事業に参加してみて、以下の項目について、効果はあったと感じていますか。



出典:平成27年度地域学校協働活動の実施状況アンケート調査(文部科学省・国立教育政策研究所)

【調査結果】

子どもたちの「コミュニケーション能力の向上」や「**地域への理解・関心の深まり**」だけでなく、「**地域の活性化**」や「**地域住民の生きがいきづくり**」など地域づくりの観点でも有効

文部科学省 「学校と地域でつくる学びの未来」

The screenshot shows the homepage of the Ministry of Education's 'School Home Community' website. The header includes the logo and navigation links. The main banner features the text '地域みんなの力で子供たちの未来を拓く' (Expanding the future of children with the power of everyone in the community) and an image of children sitting on a green hill. Below the banner are several small thumbnail images representing different categories of activities.

学校と地域でつくる
学びの未来
School Home Community

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY

よくある質問 ▶ 初めての方へ ▶ サイトマップ ▶ SNS ▶ お問い合わせ

2文字以上のキーワードを入力 検索

自治体の方 | 学校教職員の方 | 地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)の方 | 保護者・地域の方 | 企業・団体の方

ホーム | 国の取組 | 全国の取組事例 | 企業等による教育プログラム | 関連資料・パンフレット

地域みんなの力で
子供たちの未来を拓く

地域と学校の連携・協働は、
教育と子供たちの明日へ心を寄せる
すべての方々に支えられています。

一時停止

未来を担う子供たちの豊かな学びや成長を支えるためには、地域と学校がパートナーとして連携・協働することが重要です。本サイトでは、国の取り組み、地域と学校が連携・協働した事例、企業・団体・大学等の方と学校が協働するためのツール、イベントの情報を掲載しています。

The screenshot shows the 'Case Search' page. It features a search bar and a list of search results. The first result is for '飯高特別支援学校学校運営協議会/地域学校協働本部' (Iihaga Special Support School School Management Association / Local School Cooperation Department). The page includes filters for '活動事例' (Activity Examples), '名称タグ' (Name Tags), and '地域タグ' (Location Tags). A photo of people in a meeting is shown next to the search result.

事例検索

ホーム > 全国の取組事例 > 飯高特別支援学校学校運営協議会/地域学校協働本部

飯高特別支援学校学校運営協議会/地域学校協働本部

事例検索

活動事例 | 飯高特別支援学校学校運営協議会/地域学校協働本部 | 活動紹介 (PDF形式:275KB)

名称タグ | 2022年度 | コミュニティ・スクール | 特別支援学校

地域タグ | 千葉県

千葉県立飯高特別支援学校
地域の課題を教育資源に

検索トップページに戻る

PAGE TOP

▶▶▶ 文部科学省 「学校と地域でつくる学びの未来」 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/index.html>

市内各学校の課題①

【人材育成】

- ・ **地域コーディネーター**を担える人材を発掘・育成していく必要がある。
- ・ 活動に具体的に関われる人材，資源の確保に努めたい。
- ・ 保護者・地域から協力者をさらに増やしていくことが望まれる。
- ・ 町会員以外の地域の方々のCS活動への参加促進。

市内各学校の課題②

【学校・地域との連携】

- ・ 地域にある教育資源を活用し、「地域に開かれた教育課程」実現へますます地域と学校の連携が必要である。
- ・ 関係町会の負担超過にならないための配慮。
- ・ CSとPTA活動、町会との連携の体制づくりを検討していきたい。
- ・ 校区が広く、地域差もあるので意見や要望等を細やかに聞き取る工夫が必要である。

市内各学校の課題③

【活動内容】

- ・ 小中一貫での取組をより綿密に連携し、9年間を見通した課題解決を目指す。
- ・ 「以前（コロナ前）と同じように」という発想ではなく、ICTを活用した取組など新しい視点での活動を提案できる会を目指す。

(平成27年中央審議会「新しい時代の教育や地方創成に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」より)

誰かが何とかしてくれる、のではなく、
自分たちが「当事者」として、
自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。

子どもたちのために学校をよくしたい、元気な地域をつくりたい、
そんな「志」が集まる学校、地域が創られ、そこから、
子どもたちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、
これからの未来の姿である。

子どもたちのために
学校と家庭と地域が一体となって

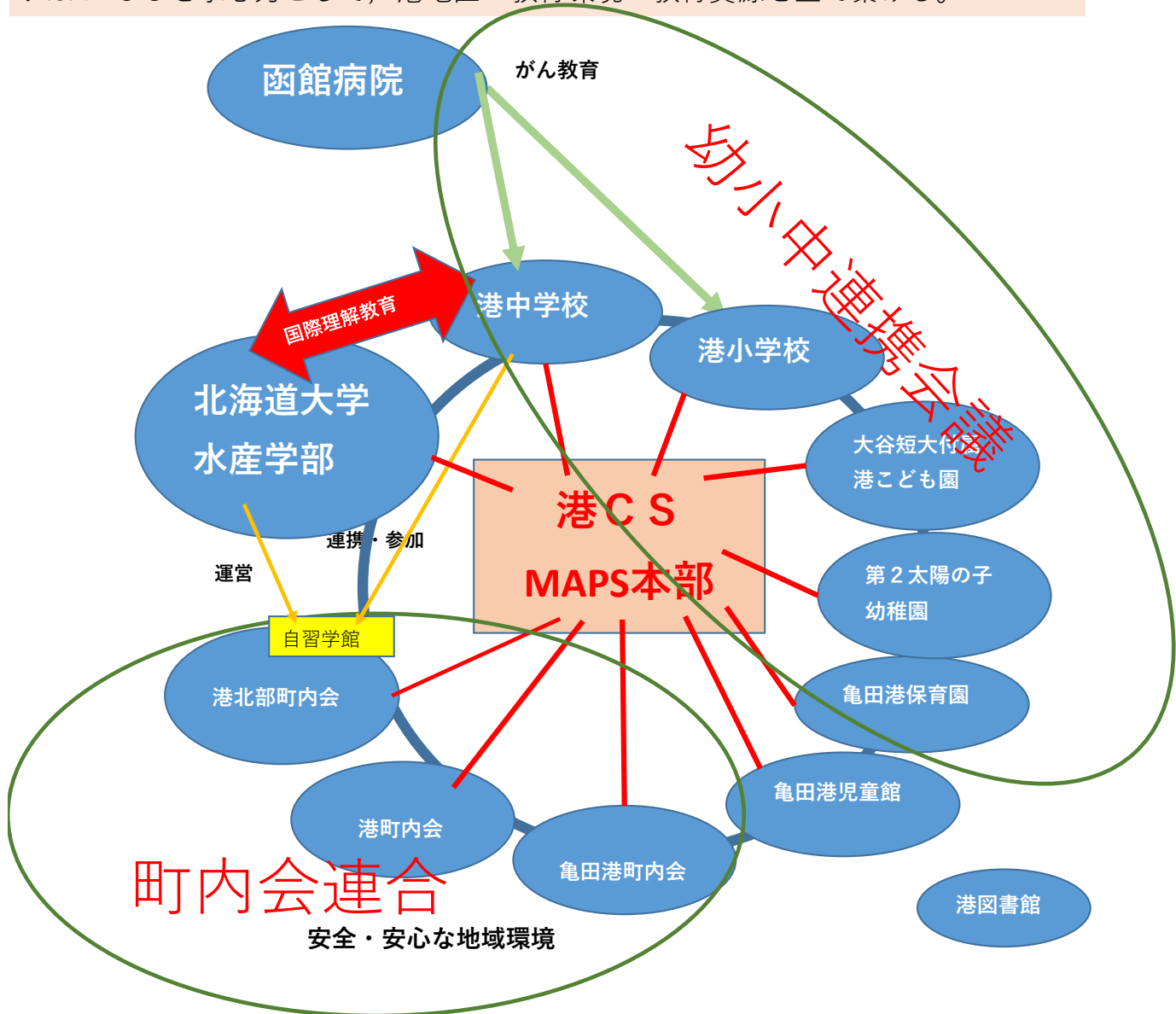
Minato academic package systems

港アカデミック・パッケージ・システムズ (MAPS) 構想

～学校と地域でつくるこれからの学びの地図～

1. 目的 地域と学校が連携・協働して、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で港地区の未来を担う子ども達を育む。

2. 方法 CSを求心力として、港地区の教育環境・教育資源を全て繋げる。



3. 具体
- ①全ての教育力をCSにつなげる。→地域の教育資源、人材の発掘・確保、地域ボランティア組織の確立
 - ②安全・安心な地域環境を作る。→地域ボランティアからなる「見守り隊」実施
 - ③小中学校に人流を作る。→地域ボランティアの活動、地域協働会議室の常設、参観日などの呼びかけ
 - ④CS行事や企画を立てる。→地域避難訓練、がん教育、自主学習会

地域協働会議室の常設

1. 目標 CSの活性化とともに主体的な活動を確立する。
2. 方法 函館市立港中学校2階、家庭科準備室を下記のように整備し、地域協働会議室としても活用する。



地域合同避難訓練

1. 目標 地域全体として安全・安心な環境作りを推進する。
2. 方法 CS会議を通じて、関係機関との連携を図り、実施日・方法の共通理解と実行を図る。

3. 取組

時期	取組の具体
2月	CSにて日程調整
4～6月	CSにて提案
9月1日(金)	実施
	反省

4. 連携機関

港小学校、港中学校、亀田港保育園、大谷短大付属認定港こども園、第二太陽の子幼稚園
 港町会、亀田港町会、港北部町会
 消防
 市の災害関係の部署（町会から働きかけて）

5. その他

- 感染状況に応じて、開催時期の変更などもある。
- 港小学校における避難に係る授業の参観を企画する。
- 港中学校における避難訓練の様子の参観を企画する。



港中学校 参観の様子



港小学校 参観の様子

がん教育

1. 目標 ガンについての知識を身に付けさせ、児童生徒の健康維持意識を高める。
2. 方法 函館病院の協力を得、講義形式で授業を行う。(リモート開催)
3. 対象 港小学校5年生 港中学校1年生

4. 取組	時期	取組の具体	備考
	4～6月	函館病院との調整	
	7月	がん教育授業実施	
		反省・改善	



地域ボランティア

1. 目標 地域の皆様の経験や知識を活かし、学校での多様な教育活動を支援する。
2. 方法 CS委員、PTAを中心として、ボランティアを募り、活動する。

子どもの安全見守り隊

1. 目標 地域の力で児童生徒の安全を確保する。
2. 方法 CS委員、PTAを中心として、ボランティアを募る。
3. 具体 CSを媒体として、各機関に理解・協力を要請し、メンバー選出を進める。

4. 取組	時期	取組の具体	備考
	3月	4月始業式実施「見守り隊」実施案内	
	4月	「見守り隊」実施	1学期始業式
		「見守り隊」実施に係る反省・改善	



MAS（みなとアフタースクールスタディ）

1. 目標 地域人材の力を活用し、児童生徒の学習機会を確保する。
2. 方法 地域ボランティア、北大水産学部と連携する。
3. 具体 CSを媒体として、各機関に理解・協力を要請し、メンバー選出を進める。

時期	取組の具体	備考
2～3月	北大水産学部、自主学習館との連携・調整	
1学期	「自主学習館」の校内実施計画と調整	
夏期休業中	「自主学習館」の校内実施	
9月～	放課後における「自主学習館」の校内実施	週1回の定期開催を目指す

図書室ボランティア

1. 目標 希望児童生徒が放課後図書館を利用して学習や読書ができるように支援する。
2. 方法 地域ボランティアで図書館対応ができる方を確認し、支援していただく。

時期	取組の具体例	備考
1学期	放課後図書ボランティアの実施（案） 平日15:30～16:30（15:00～地域協同会議室開放） 既登録者に確認して、開放できる曜日を設定する。	図書室
9月～	実施	

コアチームの設置

1. 目標 地域コーディネーターや地域担当職員による組織的・機動的な体制を構築し、CS活動の活性化を図る。
2. 方法 地域コーディネーターのもと、各学校などの担当職員による企画毎のコアチームを設置する。

企画・活動	コアチーム担当者等	備考
地域ボランティア	CS事務局	募集と管理
見守り隊	CS事務局	
地域避難訓練	各校園避難訓練担当	
がん教育	各校がん教育・命の教育担当	
MAS	各校学力向上担当	
図書館ボランティア	図書担当（教務）	

第1回地域学校協働活動連絡会議

令和4年度(1年目)の活動発表

京谷佳子

担当校：深堀中学校
深堀小学校、駒場小学校

校区内町会：13町会

金堀・広野、乃木、柏木、川原親和会、川原
深堀、深駒、駒場自治会、湯浜、駒場団地町会
東深堀、花園、南本通



R4の活動発表

〈深堀町会×深堀小〉

ぶらりふかぼり
主担当：深堀町会



ぶらりふかぼりに参加
深堀小や聾学校と共に



R4の活動発表

〈東深堀町会・深堀町会×深堀中・深堀小〉

令和4年9月

「もったいない市in深中」

(日にち)

令和4年9月11日(日)

(場所)

深堀中学校 体育館

(協同)

東深堀町会、深堀町会
深堀中学校、深堀小学校

(内容)

“自分はもう使わないけど他の誰かは利用してくれるかも”と思われる物を地域で集め、必要とする方へ無料でもらって頂く。

小中学生が町会の方と共にチームを組み運営ボランティアとして活躍。



活動発表

〈東深堀町会・深堀町会×深堀中〉

令和4年10月

「全市一斉クリーングリーン作戦」

(日にち)

令和4年10月16日(日)

(場 所)

校区内の各町会エリア

(協 同)

校区内の各町会

深堀中学校

(内 容)

函館市が毎年行っている
“全市一斉クリーングリーン作戦”
に参加。

地域の方と交流しながら、一緒に町会
区域内の清掃活動を行う。



活動発表

〈深堀町会×深堀中・深堀小〉

令和4年12月

「深堀ひろば①「小学生への学習サポート」」

(日にち)

令和4年12月27日(火)

(場 所)

深堀町会館

(協 同)

深堀町会

深堀中学校、深堀小学校

(内 容)

中学生による小学生への
学習ボランティア

冬休み初日に開催しており、小学生が
持参した宿題ドリルなどの学習について
中学生がサポート。



活動発表

〈深堀町会×深堀中・深堀小〉

令和5年1月

「深堀ひろば②SDGS目標12 つくる責任つかう責任」

(日にち)

令和5年1月12日(木)

(場 所)

深堀町会館

(協 同)

深堀町会

深堀中学校、深堀小学校

(内 容)

廃棄予定だった古い浴衣を
ウエスにリメイクし、必要な方に
使って頂けるようにする。

小学生、中学生、町会メンバーで
チームを組み作業。
完成したウエスを深堀小学校へ寄贈。



活動発表

(1) 出前講座実施 5回

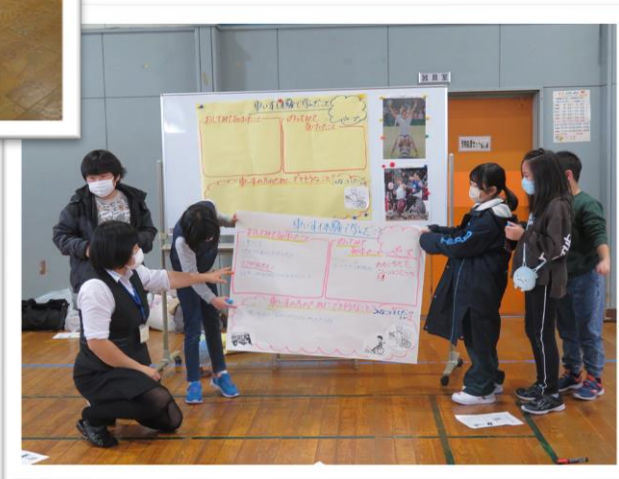
(1) 認知症サポーター養成講座

- ① 深堀小学校 4年生
令和4年11月15日
- ② 駒場小学校 4年生
令和4年11月25日



(2) 車いす体験

- ① 深堀小学校 3年生
令和5年1月27日
- ② 駒場小学校 4年生
令和5年2月10日



(3) 高齢者疑似体験

- ① 駒場小学校 4年生
令和4年3月2日

活動発表

(2) その他の活動 5回

(1) 深堀中学校

① 地域産業体験(1年生)

「地域産業訪問：インタビュー活動」の訪問先調整(15機関)

② 総合キャリア教育(2年生)

「職業講話」の講師調整(8業種)

(2) 深堀小学校

① まち歩き探検(2年生)

「まち歩き探検：インタビュー」の訪問先調整

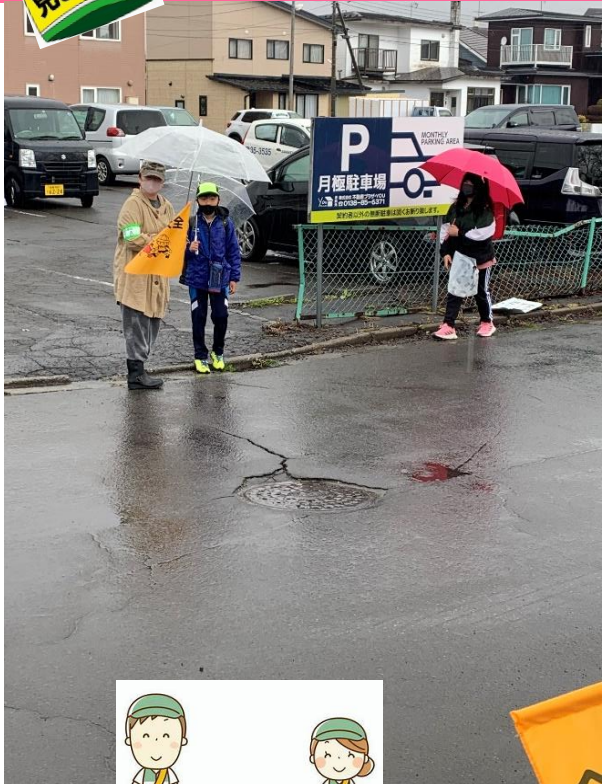
② PTA役員会への参加

(3) 駒場小学校

① 手話講座講師紹介(4年生)



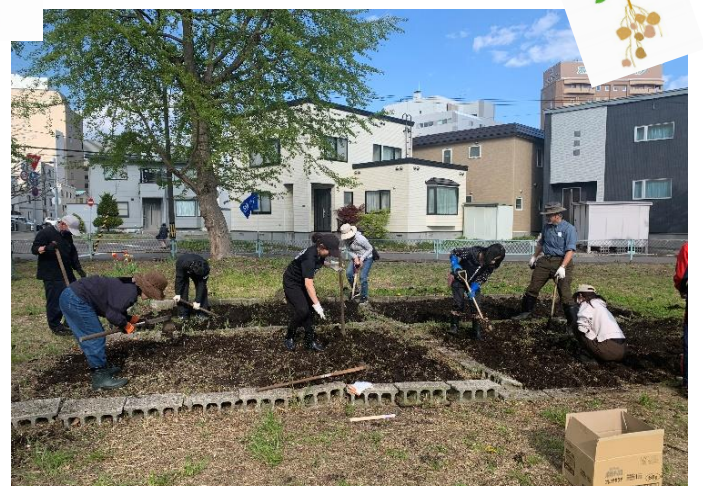
春休み明け見守り活動の様子



令和4年5月畑の土おこし



令和5年5月の畑の土おこし



昭和小学校 地域見守り隊について

令和4年度の取り組みから

昭和小学校 地域コーディネーター 照井千津

小学校の立地

- 函館市立昭和小学校
- 昭和1丁目5-5
- 校区には国道5号線や本通富岡線、道道赤川線など、車通りが多い
- 向かいには商業高校
- 商業地と住宅地が混在



背景

- PTA活動～月 1 回の登校時の見守りだけでは人手不足
- 保護者～仕事のため、子どもの登校に付き添えない
- 地域での子供たちの安全性を考える必要は、認識している



地域の人とのつながり、人手不足を補う、安全面向上

「地域見守り隊（たい）」 の発足

発足にあたり

- 学校運営協議会にて
内容の周知、承認
メンバー～町会長、児童館館長、民生児童委員、幼稚園園長
- 校内PTAにて
総会で周知、承認の後に全員加入を勧める
- 町内会総会
内容の周知の後に加入の案内配布し加入を勧める
- 民生委員会
内容の周知の後に加入を勧める

☆あくまでも地域コーディネーターが中心という位置づけ

目的

- 児童の登下校の見守りを行い安全・安心な地域づくりと児童にとって安心与える登下校の環境を整える。
- 登下校の見守りを通して、町会と児童との触れ合いを行うことにより地域とともにある学校づくりの一つとして取り組む。

内容と 期待される 効果

- 町会、PTAに昭和小「見守り隊」に加入していただき、「見守り隊」の証として、ピンク色のバンダナに見守り隊のマークを張ったものを配布する。そのバンダナを付けて児童の登下校の見守りをしていただく。
- 児童が何かあった時にピンクのバンダナをもった大人の方に助けを
- 求めることができる。町会やPTAの方々が登下校の見守りを積極的に行うことで、学校との協力体制の強化ができる。

案内方法

- ・案内チラシをPTA、町内会に配布し、随時募集を呼びかける
- ・令和4年度全市一斉下校指導の集会を通じて、発足式を実施



児童の安全な登下校を皆さんの見守りでサポートしませんか？昭和小学校の学校運営協議会の中で「昭和小地域安全見守り隊」の取組について協議し、地域と学校を繋ぐ地域コーディネータを中心として、地域で子供たちを見守る登下校のサポートを考えました。

昭和小地域安全見守り隊とは？

○ いつでも都合のつく日に昭和小学校児童(自分の子ども、自分の孫、近所の子どもなど)の登下校や放課後帰宅時間の頃に、自宅玄関前(家の外)に出ていただき、笑顔で「おはよう、いってらっしゃい」、「おかえり、きをつけてね」などと、元気よく声をかけていただき子供たちを見守るボランティア活動です。

○ 見守り隊の隊員資格は趣旨に賛同をいただける、昭和小学校の校区(通学区域、通学路付近)にお住いの成人の方々(もちろんPTAの方々も)であればどなたでも大歓迎です！

【問い合わせ先】昭和小学校PTA事務局(教頭・吉田) ☎41-4964

案内文から抜粋

参加人数

- 現在50名程度であるが随時募集をし、100名を超える程度になる見込み（令和4年度）



今後は

- 卒業する児童の保護者には、そのまま地域での見守り隊としてバンダナを付けてこれまで同様に携わっていただく
- 町内会や校区に関わる機関等に、随時、案内をしていく
など



「活動報告」

市立函館高等学校 地域コーディネーター 田中 慎一

- 1) 「市立函館」はどんな学校なのか…
 - 校訓「何を求める」
 - 育てたい生徒像 育てたい6つの力（資質・能力）
- 2) 学校の求めていることは何だろう…
 - 2023年度 1年次 総合的な探究の時間「社会人講話」でお話しいただきたいこと
 - 1年次 総合的な探究の時間「社会人講話」実施要領
- 3) 市立函館高等学校「社会人講話」本編
- 4) 「自己実現に向けて力強く生きてほしい」若者たちへの想いは伝わったろうか…
 - 講演風景
 - 「社会人講話」レポート

「市立函館」はどんな学校なのか…

令和4年度第3回学校運営協議会資料より

校訓 「何を求める」

校訓に寄せて

- 1 生徒の皆さんに問う。

「自分の人生に何を求めるか。求める人生に向かって、今をどのように生きようかと考えるか」
- 2 この問いかけは余りにも重たく、実は、私にも即答することができません。ただ、即答は難しくとも、自分の人生を築くために、欠くことのできない問いかけであると私は思います。
- 3 人生は、生涯をとおして、その時々自分が「求めるもの」に向かっての修練の場です。特に高校時代は、最も人生に悩み葛藤する時期です。しかし、その悩みや葛藤こそが、人生を生き抜く心身の土台となるのです。
- 4 生徒の皆さんに改めて問う。

「自分の高校生活に何を求めるか。その求めるものに向かって、今日をどのように過ごすとするか」
- 5 雛鳥は、餌を求めて懸命に「嘴」を開けます。巣立ちの時が近づくと、羽も折れんばかりに飛ぶ力を養おうとします。そして、自分で餌を得るために粘り強く訓練を繰り返します。大海に飛び込む危険も拒みません。
- 6 人間も同じです。求めるものがあれば、自然と努力が生まれます。求めるものが高ければ、苦難に立ち向かう勇気が湧きます。情熱は、汗や涙に耐える力を与えます。
- 7 人生には、自分のために敷かれたレールはありません。自分のためにだけ舗装された道也没有ありません。自分で大地を耕し、自分で道を切り開いて行くのが人生です。高村光太郎の詩「道程」は「僕の前に道はない僕の後ろに道は出来る」という言葉で始まります。何と氣迫に溢れた言葉ではありませんか。
- 8 生徒の皆さんに期待する。

「自分は何を求めるか、常に我が心に問いかけよ。そして、自分の求めるものに向かって、果敢に挑戦せよ。自分の後ろに道が出来ることを信じよ。」
- 9 求めるものを探し、若者である今こそ、自分を磨いて下さい。そのために自分の力を尽くして下さい。やがて、自分の道が見えてきます。
- 10 この「校訓」の意が同窓生と在校生の心の中に浸透し、心の拠りどころとなることを願います。

平成21年3月24日

市立函館高等学校 初代校長 森 武

《育てたい生徒像、育てたい6つの力（資質・能力）》

【学校教育目標】

- 1 知性を磨き、可能性を拓こう
- 2 情感と品性を養い、人間性を深めよう
- 3 心と身体を鍛え、逞しく生きよう
- 4 郷土を学び、世界を見つめよう

【スクール・ミッション】

- 1 個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付け、主体的に判断し行動することができる生徒の育成
- 2 他者に対する思いやりや感謝の気持ちなど、豊かな人間性や社会性を培い、多様な人々と協働し、支え合える生徒の育成
- 3 多様化する国際社会の中で、新たな社会的な価値を創造できる生徒の育成

育てたい生徒像

世界に目を向け、新しい時代を生き抜くことのできる生徒

育てたい6つの力（資質・能力）

- | | |
|------------|------------------------------------|
| ① 主体的学習力 | 個性や能力に合う学び方を工夫・改善し、主体的に知識・技能を身に付ける |
| ② 基礎力 | 課題を見つけ、解決するためにより良い答えや解を導き出す力を身に付ける |
| ③ 思考・分析力 | 事実や考えを客観的に比較・吟味して、分析する力を身に付ける |
| ④ 発信・表現力 | 自分の気持ちや考えをまとめたり、分かりやすく伝える方法を身に付ける |
| ⑤ 自己認知・協働力 | 自分や他者を肯定的に認め、思いやりを持ち協働していく力を身に付ける |
| ⑥ 計画実行力 | 挑戦心を持ち、見通しを立て、失敗を恐れずにやり遂げる力を身に付ける |

具体的な方策

グローバル人材の育成

- 英語を中心とした外国語教育の充実
 - ・GTECの実施
 - ・英語検定2級合格推進
 - ・「市立函館高等学校海外留学専業」の活用
- ・選択科目の充実（中国語、ハンブル、ロシア語等）
- ICT化への対応
 - ・BYODを活用した授業実践
 - ・ICTを通じ、どこでも学べる環境の多様化

学びの質の向上

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - ・「教わる」から「学ぶ」へ
 - ・「知識の伝達と習得中心」から「知識の活用による思考と探究中心」へ
 - ・「知識の体系」から「資質・能力の体系」へ
 - ・「資質・能力」の育成
 - ・「主体的に学ぶ力」の育成
- 高大連携の推進による学ぶ力の向上

協働的な問題解決能力の育成

- 「総合的な探究の時間」の充実
 - ・学問系統研究
 - ・公立はこだて未来大学訪問
 - ・小論文
 - ・プレゼンテーション
 - ・課題研究
 - ・出前講義・講演会
- 「函館学」の発展・深化
 - ・地域課題の解決を目指した探究型学習の充実
- キャリア教育の充実
- 特別活動・部活動の実践

学校の求めているものは何だろう…

私にできることで…教育方針に合っていて…生徒のためになり…生徒が「面白い」と思えることって何だろう…

2023年度 1年次総合的な探究の時間 「社会人講話」

でお話ししていただきたいこと

高校に入学したばかりの生徒たちに働くことや社会に貢献することの意義や楽しさ、世の中にはいろんな仕事があり、いろんな道の人をたどる大人がいて、多様な生き方があることを伝えたい。そのことを通じて、生徒たちに自分の生き方を考えるきっかけや前向きにこれからの人生を考えるきっかけを与えたいと考えています。

具体的には以下のようなお話を想定しています。しかし、教員にはできないお話をしていただきたいと考えていますので、イメージ程度にとらえ、自由にお話ししていただけたらと思います。

- ・お仕事の内容
- ・お仕事の苦勞、工夫、喜び
- ・高校卒業後、今のお仕事に就かれるまで
- ・社会人として大切なこと
- ・高校時代に身に付けてほしいもの
- ・高校1年生がこれから社会へ一歩踏み出すことができるエール

令和5年 4月12日
市立函館高校 探究部

1年次 総合的な探究の時間「社会人講話」実施要領

- | | |
|------|---|
| 1 目的 | 地域で活躍する社会人から話を聞き、働くことの意義や社会への貢献について考えを深める。また、社会人の生き方や考え方に触れ、自己のキャリアについて考える契機とする。 |
| 2 対象 | 1年次生徒（200名） |
| 3 日程 | 4月24日（月） 5・6校時（13:15～15:05） |
| 4 時程 | 12:45 講師集合（会議室）
12:45～13:05 挨拶・打ち合わせ・講話準備
13:15～14:05 第一部（進行、講師紹介：各担任）
14:05～14:15 休憩（会議室）・移動
14:15～15:05 第二部（進行、講師紹介：各担任）
15:05～15:15 挨拶・まとめ（会議室） |

5 講師

	第1部	第2部
1-1		
1-2		
1-3		
1-4		
1-5		

コーディネーター 市立函館高等学校 地域コーディネーター 田中 慎一 様

6 その他

- ・自分のキャリアを考えるヒントにするため、さまざまな職種の方のお話を伺えたらと考えております。
- ・講師の方々には第一部と第二部で別の教室に入ってください講話や交流の時間としたいと考えています。ご自身の経験談や後輩への思いなどをお話しいただけると助かります。「社会人として大切なこと」や「高校時代に身につけて欲しいもの」などはもちろん、前向きに社会に踏み出すことができるエールも送っていただけると生徒たちの励みになると思います。
- ・謝金・交通費などはお支払いすることができませんのでご了承ください。
- ・多様な職業に触れられるようご配慮いただけると幸いです。

1：私と市立函館高校とのかかわり

2：今、私がしている仕事

正式名称：特定非営利活動法人日本障害者・高齢者生活支援機構

1：JLEDの障害福祉事業

2：私がかかわっている活動

3：プロフィール 函館でこの仕事をするまでの道のり

4：これからの時代を生きるみなさんへ

1：「生き方」 稲盛 和夫 著

2：「覚悟の磨き方」超訳 吉田 松陰 池田 貴将 著

3：「置かれた場所で咲きなさい」 渡辺 和子 著

5：自分の人生は「自分次第」

私と市立函館高校とのかかわり

平成28(2016)年に息子が入学
それとともにPTA役員、おやじの会に…
息子の卒業後、コロナの最中もPTA行灯を
作っていました…

平成28(2016)年 PTA副会長
平成29(2017)年 PTA副会長
平成30(2018)年 PTA会長
平成31(2019)年 学校運営評議員
令和03(2021)年 学校運営評議員
地域コーディネーター

2016



2017



2018



2018 会長をした年度には、PTA連合会から感謝状を頂きました。



コロナ禍の中での活動：様々な学校活動に制限がかかる中、
イチハコの伝統が途切れてしまわぬように…と、PTAのOB
としてサポートしました。

2020



2021



今、私がしている仕事

日本障害者・高齢者生活支援機構(JLED)は、障害児者福祉事業とまちづくり事業を行うNPO法人です。

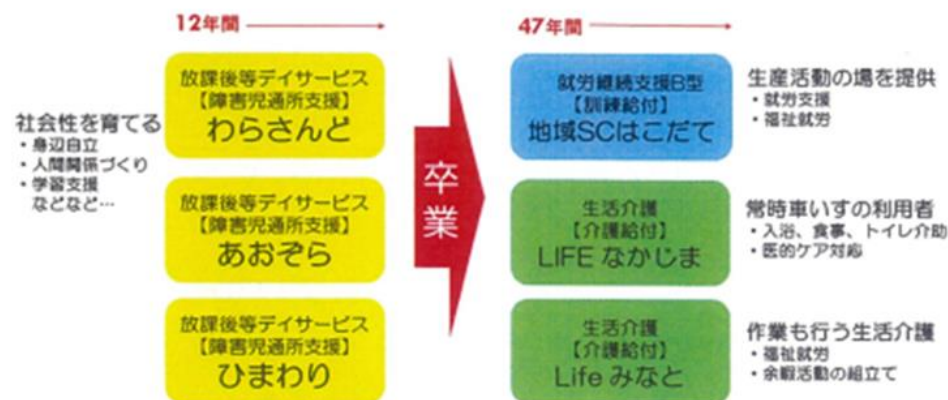
JLEDの 障害福祉事業

学校から社会へ…
子どもからオトナへ…
【支援の連続性】

特定非営利活動法人
日本障害者・高齢者生活支援機構(JLED)
の理事長(代表者)をしています。

2023年4月現在

社員数：61名 利用者数：137名 1年間の収益は約2億3000万円の規模の法人です。
児童・生徒対象(小学1年生から高校3年生)が3事業所、成人対象(18才以上)が3事業所
あります。「障害者総合支援法」という法律にもとづいた事業です。



私に関わっている活動

函館市教育委員会系

- ・函館市教育支援委員会委員
- ・函館市特別支援教育推進協議会委員 副委員長

市立函館高等学校系

- ・学校運営評議員会委員 委員長
- ・地域学校協働活動推進事業 地域コーディネーター

北海道中小企業家同友会

- ・D I 委員会(旧障がい者問題委員会)委員長

函館三田会

- ・幹事長

自分の人生は「自分次第」

市立函館高校の校訓「何を求める」は、将来、どんな仕事に就きたいのか…どのように社会貢献していくのか…それを考えて、今なすべきことを考えなさいということだと思います。

それには、様々なことに興味と関心を持ち、いろいろな活動に参画して自ら経験し、時に立ち止まって自分を振り返り「現在の自分」を検証する…そういう取り組みがあってこそ、できることだと思います。

今回ご紹介した「生き方」で、著者の稲盛和夫はこう言っています。「1日1日をど真剣に生きる…これも単純なことですが、生き方の根幹をなす極めて大切な原理原則のひとつです」「先の功をいたすに焦らず、今日1日を懸命に、真剣に生きることによって、おのずと明日も見えてくる。そうした充実した1日の連続が、5年たち10年たつうちに大きな成果に結実する…私はそう考え肝に銘じながら、これまでの経営を行ってきました。その結果『今日を完全に生きれば、明日が見えること』を、人生の真理として体得することができたのです。

これからの人生で、先々の不安に苛まれることもあるでしょう。そんな時は、今、目の前にある課題に「ど真剣に」取り組んで下さい。そうすることで、必ず「明日」が見えてくるはずですよ。

今、私がしていること、ここに辿り着くプロセスをみなさんにお話ししましたが、何だか失敗と脱線の連続で、決してお手本になるようなものではありません。しかしながら、高校受験だったり大学受験だったり…社会人になってからも、自分がなすべきことに正面から向かい合って、真剣に、全力で取り組んできました。その結果が「今の私の現在位置」のように思います。

不条理に感じることもたくさんあります。しかしながら、相手のせいにして、社会や環境のせいにする、イコール「自分は悪くない」になってしまうので、人は工夫も努力もなくなり、自分にものごとを解決する力もつかないし、結局何も解決しません。世の中には理屈に合わないことが山ほどある前提で「では、自分はどうするのか」と考えてほしいと思います。

これからの人生を楽しめるものにするか、しないか…それは、みなさん次第です。健闘を祈ります。

「自己実現」に向かって力強く生きてほしい…
若者たちへの想いは伝わったろうか…



総合的な探究の時間「自己の在り方や生き方について考える」

「社会人講話」レポート 1年

○「社会人講話」は、地域が活躍する社会人からお話を聞くことで、「働くことの意義」や「社会への貢献」について考えを深めることをねらいとしています。

1. 5校時の講話を聞いて感じたこと、考えたこと (講師: 田中 慎一 さん)

「自分の人生は自分が第一、先のことにとらわれずまず、目の前のことに正面から向き合う」などの言葉にとても感銘を受けた。田中さんは、いつも自分の目標や理想は高きでいてそれに向けて人の何倍もの努力をしているところが本当にすごいと思いました。また、楽なところばかり楽しんでおくれた状況が満足せずに、上を目指して続けることが、人生の先輩として参考にしてほしいと思います。今までは、「明日オレはいいぞ」の考えで、なんとなく毎日過ごしていたらよかったけれど、目の前にある課題に「と真剣」に取り組んでいきたいです。

2. 6校時の講話を聞いて感じたこと、考えたこと (講師: 田中 慎一 さん)

・田中さんが「函館に住みたい」という気持ちだけで行動したように私もこれから夢に向かっていたいことなどをたくさんしていきたいと思いました。また、田中さんのように自分のやりたい仕事に就けなくても、今を思う存分に納得できるよう、私も思い通りの仕事に就けなかったり、思い通りのことばかりできないかもしれませんが、結果として良い方向にできるように一日一日を大切に、失敗を恐れず挑戦し、これから自分の出来ることに向かって頑張りたいです。

2. 6校時の講話を聞いて感じたこと、考えたこと (講師: 田中 慎一 さん)

私はよく「もし〜だったらどうしよう」といったことを考えてしまい、不安になります。でも今回の講話でそんなことを気にするより、今を真剣に生きてみようと思いました。また、失敗しても、あきらめないことが大切だと思いました。どんな理由で始めたとしても、続けられて、好きになれることが、これからあるといいかなと思いました。

2. 6校時の講話を聞いて感じたこと、考えたこと (講師: 田中 慎一 さん)

田中さんの話を聞いて、これからの人生でつまづけることがあっても、今日と真剣に生きれば「あの頃」と次の課題が見えてくるのだと思った。私もここからの人生で、大学受験など、さまざまな困難が待ち受けているかもしれないが、先のことにとらわれず、一日一日を一生懸命に生きてみようと思った。私はこれからどんな仕事か、何をしたいか、まだ決まっていなくても、自分の夢のみのないことをチャレンジしてみようと思った。